

くすりのしおり

2011年5月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：エダラボン点滴静注バッグ 30mg「アメル」

主成分：エダラボン（Edaravone）

適応区分：



この薬の作用と効果について

「脳梗塞」は、脳の血管が細くなったり、血管に血栓（血のかたまり）がつかまり、脳に酸素や栄養が送られなくなるために、脳の細胞が障害を受ける病気です。この薬は血液の流れがわるくなったところで増加する有害なフリーラジカルを消去することにより、脳を保護します。

この薬は脳梗塞の症状である手足のまひやしびれ、日常生活における動作の障害を改善する、あるいは通常の活動が可能な状態に改善します。

注射の前に確認すること

・ 次のような人は注射のまえに主治医に申し出てください：

- ・ 以前に薬を飲んで、または注射を受けて、発しんやかゆみなどが出たことがある。
- ・ 腎臓が悪い。感染症にかかっている。肝臓が悪い。心臓が悪い。いちじるしく意識がうすれている、判断力が低下している。

・ この注射を行う期間：

症状をみながら投与の期間を決めていきますが、14日以内です。

・ 注射の方法：

通常、1日2回、30分かけて点滴で静脈内に注射します。

・ その他：

授乳中、妊娠中または妊娠の可能性のある方は申し出てください。

副作用について

・ 薬は人によって、目的の効果以外に、望ましくない作用が出る場合もあります。

◎ 次のような症状に気づいたら、すぐに主治医や薬剤師、看護師に申し出てください：

<急性腎不全（きゅうせいじんふぜん）、ネフローゼ症候群（しょうこうぐん）> おしっこが減る、むくみ、あたまがいたい、食欲がない、のどのかわき、息苦しい、おなかがはった感じ

<劇症肝炎（げきしょうかんえん）、肝機能障害（かんきのうしょうがい）、黄疸（おうだん）> 食欲がない、からだのだるい、はきけ、はく、皮ふや白目が黄色くなる、発熱、ぶつぶつ様の発しん、気分が悪くなる、下痢になる、からだがかゆい

<血小板減少（けっしょうばんげんしょう）、顆粒球減少（かりゅうきゅうげんしょう）> 鼻血、歯ぐきの出血、皮下出血、発熱、からだのだるい

<播種性血管内凝固症候群（はしゅせいけっかんないぎょうこしょうこうぐん）> どうきや息切れ、めまい、耳鳴り、あたまがいたい、貧血症状、皮ふや白目が黄色くなる、出血傾向（鼻血、歯ぐきの出血、皮下出血など）

<急性肺障害（きゅうせいはいしょうがい）> 息苦しい、唇や手足の爪が青紫～暗紫色になる

<横紋筋融解症（おうもんきんゆうかいしょう）> 手足の筋肉の痛み、こわばり、しびれ、脱力感、からだのだるい、赤かつ色のおしっこ

<ショック、アナフィラキシー様症状> 寒気、はきけ、腹痛、顔色がそう白になる、冷や汗が出る、めまい、どうき、発しん、かゆみ、じんましん、胸が苦しい、息が苦しい、全身が充血して赤い

<発赤> 皮ふが充血して赤い <紅斑> 皮ふに赤色の斑がみられる

<膨張> 皮ふがはれる <膨疹> 皮ふに境がはっきりしたピンク色のふくらみができる

◆ 次のような症状に気づいたら、早めに主治医や薬剤師、看護師に相談してください：

◇ 上記のほかに次のような副作用が出ることがあります：

<熱感> 熱い、熱っぽい <血圧上昇> あたまが重い、肩こり

・ 他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。

注射のあとに注意していただくこと

この薬を注射したときは、頻回に（検査の回数は症状によって異なります）、腎臓、肝臓、血液のはたらきを調べるために採血して検査します。

その他（コメント）

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。